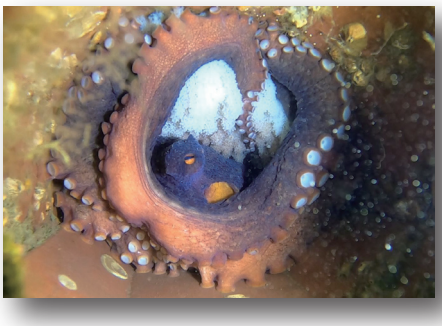
令和５年度公益社団法人日本水産学会春季大会（2023.3.28～3.31）

営 2023-036

池上輝成・穴口裕司・加村聡（海洋建設㈱）・團重樹（東京海洋大学）

稚ダコ期における生息環境としての貝殻基質の有効性について

研究の目的



重要な水産資源であるタコ類は多くの魚介類と同様に減少傾向にあり、タコ類資源の保護・増殖は重要なテーマの一つとなっています。

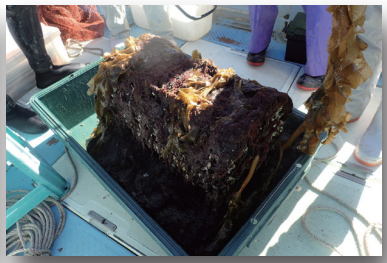
しかし、着底から漁獲加入するまでの間の生活史初期に関する知見は極めて少ないのが現状です。

そこで 2021 年には貝殻を使用した基質の過去の調査結果からタコ類の出現データを検証することで貝殻基質を用いた稚ダコの採集器の有効性を確認しました。

貝殻基質を稚ダコの採集器として利用できるなら、貝殻基質が稚ダコの生息環境になりうるのではないかと考え、過去の研究から引き続き、瀬戸内海域で回収された貝殻基質の調査結果からタコ類の出現データを検証することで、稚ダコ期における生息環境としての貝殻基質の有効性を検証しました。

調査結果

貝殻基質を回収した 3 県（11 カ所・貝殻基質回収数 38 個・調査期間 2020 年 10 月～ 2022 年 12 月）の内、6 カ所において 13 個体（平均 5.8 個体／㎡）の稚ダコが出現していました。



考察①

貝殻基質等を捕獲器として使用した事例と同等の結果となっており、稚ダコが生息する海域であれば個数や規模を増やすことで、高い確率で稚ダコが出現すると考えられます。

稚ダコの生息場として有効

考察②

稚ダコは貝殻の重なりによってできた空間を隠れ場として利用していると考えられます。また、貝殻基質からは稚ダコの餌料となる小型のエビ・カニ類などの甲殻類が稚ダコの重量の約 7 倍出現しました。

隠れ場・餌場としての機能

マダコの養殖技術は大きく進歩しており、種苗生産技術においては確立しつつあります。種苗放流も将来的に可能になると考えています。貝殻基質等を活用することで、稚ダコの生残率を高めてマダコ資源の保全を図ることや、稚ダコの生態に関する知見を深めることが期待できます。

貝殻等を活用した生息場・放流場の造成

放流種苗の追跡調査